

「川西町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（仮称）（案）」に寄せられた意見の概要及び意見に対する町の考え方

- 1 意見の募集期間 令和5年1月30日（月）～令和5年2月20日（月）17時
- 2 提出された意見の件数 3件
- 3 提出された意見の概要及び意見に対する町の考え方

| 番号 | ご意見の概要 | 町の考え方 |
|----|--|---|
| 1 | <p>《施策方針1 環境への理解を深める》</p> <p>町の面積の50%が林や森林であることは大変有利な点である。森林整備を行い、CO₂の森林吸収を行うとともに、そこから出る間伐材を家庭で薪ストーブとして利用することについて、町としてその促進に一層力を入れてはどうか。</p> | <p>町としても、森林の保全及び活用は、温室効果ガスの吸収の観点からも大変重要な取組であると認識しております。本町においても、薪の製造や販売に取り組んでいる事業者も存在することから、地域ぐるみでの取組を進めていくとともに、個人が薪ストーブを導入する際の補助制度についても、広くご活用いただけるよう、引き続き取り組んでまいります。</p> |
| 2 | <p>《施策方針4 緑と生物を守る》</p> <p>改革の方法としては「下小松の古墳群と森林」「チョウセンアカシジミと植生」「植樹」「屋敷林の保護」「ビオトープ」などをキーワードとしてこれらと関係する個人、団体等への働きかけが必要ではないか。また、ビオトープなどを実際に作り、そこが町民の憩い、集いの場になるよう、複合的な町の施策としてはどうか。</p> | <p>昨今の地球温暖化の進行は、各地において、自然生態系の変化等を引き起こしております。その対策においては、ご指摘のとおり、各関係者と一体となって取組を進めていくことが重要であると考えます。また、ビオトープの保全、構築については、自然生態系の保護の観点から、重要な視点であり、山形県指定天然記念物であるチョウセンアカシジミやツクシガヤなどは、地区や小学校が中心となり保護活動を実施しています。下小松古墳群や犬川地区交流センター東側ビオトープ、東沢自然学習園等は、貴重な動植物が生息している箇所であり、自然観察会の開催や保護活動等を通じ、町民が自然の恵みを体感し、一人ひとりの意識を醸成することから取り組んでまいります。</p> |
| 3 | <p>《総論》</p> <p>目標に対する達成度をきめ細かく調査し、公表してはどうか。以下の例ではCO₂削減貢献度は小さいと思われるが、町民にはわかりやすいし、家庭や個人の協力を得やすいのではないかと。</p> <p>（例）薪ストーブなどの補助金交付の件数、金額等</p> <p>（例）各家庭ごとの石油購入量</p> <p>（例）家庭ごみの量</p> | <p>本計画の推進については本町における地球温暖化対策の推進にあたっては、行政のみならず、町民や事業者、教育機関等が一体となって取り組んでいくこと、また、その際の積極的な情報発信が重要であると考えます。町民等にとってわかりやすく、透明性のある情報発信に努めてまいります。</p> |